



地域に残された古民家を再生 魅力的な町づくりで注目度アップを狙う



大阪・神戸市内から車で約60分、京都市内からでも車で90分ほどの兵庫県篠山市。その一角に、1施設内でサービスを完結するのではなく、町全体をホテル化する構想が生まれ、動き始めました。篠山城跡のある篠山市の中心部、西町で進められている「篠山城下

明治前期に建てられた元銀行経営者の住宅をリノベーション。景観重要建築物にも指定されている建物は、重厚感と心地よさが共存。

訪日客を呼ぶヒント①

歴史的建造物で 伝統と文化を伝える

アクセス至便でもないこの地に、わざわざ足を運ぼうと考える人は、国内外を問わず、歴史・文化に感性が高い人たち。そのため、アップークラスの訪日外国人客をメインターゲットとし、この地域に眠っている建築文化や食文化を磨いていく。



江戸時代建造の古民家を再生 ホテルや店舗にして人を呼ぶ

町ホテルNIPPONIA」です。NIPPONIAとは、地域に残された古民家などの歴史的建造物を、宿泊棟やレス

トラン、工房などとして面的に再生・活用し、その土地に根ざした歴史・文化を未来に向けて紡いでいくプロジェクトの名称。城下町や集落などの歴史地区をそのままホテルにし、それをネットワークする活動を全国に広げています。

「なかでも私どもが運営する『篠山城下町ホテルNIPPONIA』は、そのフラッグシップホテルで、篠山城跡を取り囲むように5つの宿泊棟が点在しています。城下町全体がひとつのホテルで、滞在の間は町に住まうように過ごしていただきたいと考えております」と、バリユーマネジメントの池上順一さんは説明します。

篠山城下町で空き家となった古民家を、2009年から一般社団法人ノオトが順次再生し、20軒の店舗を開業。イターンやUターンの事業者を誘致してきました。

2015年11月には、バリユーマネジメントが4物件11室でホテルの運営をスタート。現在は1室増えて5物件12室、2018年にはさらに5物件9室が追加オープンする予定です。

欧米の観光客の受け入れを意識し 海外の旅行代理店を招聘

篠山城下町ホテルの稼働率はおよそ50%ですが、年々伸びている現在、訪日観光客の受け入れも大きなテーマとなっています。

2017年2月には、欧米からの観光客受け入れを得意とする旅行代理店を招聘。篠山



陶芸体験教室も行っている工房で、ファムトリップ参加者も陶芸体験。観光だけでなく体験の楽しさも味わってもらう。



訪日客を呼ぶヒント②

体験してもらうことで 魅力&情報の拡散を

欧米の観光客の受け入れを得意としている旅行代理店を招聘し、実際に篠山エリアを体験してもらうファムトリップ（訪日旅行責任者等が対象の視察ツアー）を実施。欧米人目線で感じた篠山城下町ホテル NIPPONIA の魅力を拡散してもらい、メインターゲットとなり得る外国人客を篠山エリアに誘導するきっかけづくりをスタートさせた。また、今回の体験を多くの人に語ってもらうことで、口コミ効果も狙っている。



丹波篠山牛、丹波の黒大豆、丹波栗、丹波松茸、山の芋……。古くから丹波篠山とその周辺は、山や森、海の幸の宝庫として知られる。篠山城下町ホテル NIPPONIA では、丹波篠山の自然が育てた四季折々の味覚を楽しむことができる。



古民家の昔ながらの趣を残しつつ、居心地良くリノベーションされたレストラン。この地で育まれた地元の味を堪能したい。

城下町ホテル NIPPONIA と集落丸山の滞在体験、城下町散策はもちろん、蕎麦と旬の料理の「ろあん松田」での蕎麦打ちや、陶芸家、市野雅彦さんの工房での陶芸体験を通して、篠山の魅力を感じてもらいました。

訪日外国人旅行者の関心が、徐々にゴールデンルートから地方にシフトしているなかで、今後は篠山エリアへの注目度も増していくことが予想されます。実際、グループホテルの「竹田城 城下町ホテル EN」は、すでに海外メディアに取り上げられ、海外での認知も上がっており、インバウンド来店↓高い顧客満足度↓口コミによる集客のグッドサイクルが生み出されつつあります。

篠山エリアでも、多言語サイトの整備、多言語対応窓口の設置など、安心して予約してもらえる環境づくりに取り組んでいます。

篠山城下町ホテル NIPPONIA の目的は、単に古民家を活用してホテルを運営するということではありません。ホテルを運営することで、古民家をもっとあった魅力ある姿に蘇らせ、宿泊顧客に町の魅力を伝え、町のファンを増やし、町に人を呼び戻し、町の雇用や消費を生み出し、内発型の新しい産業を創出することが、最終ゴールとなります。

「この地に眠っていた建築文化や食文化の価値を磨き上げ、新たに表現することで、国内外を問わず、歴史・文化に感性が高い人たちの関心を、さらに喚起していきたいと考えています」（池上さん）